

# 東北ダンプ

【発行】全日本建設交通一般労働組合(略称・建交労)東北ダンプ支部  
〒010-0976 秋田市八橋南 1-2-29  
建交労秋田ダンプ支部内

2022年11月1日発行 NO.5

TEL018-823-7748 fax018-823-7751  
Email: kenkourouakita@bz03.plala.or.jp

## 東北ダンプ支部結成

10月22日、福島市穴原温泉で、建交労東北ダンプ支部の結成大会が開かれ、福島、山形、岩手、秋田、青森の各県から、代議員44人全員と傍聴者7人が参加しました。

これまでは、東北各県にダンプ支部があったものの、経済闘争の到達点や支部財政事情はバラバラだったため、広域支部の下で方針を強化し、単価をはじめとした組合員の就労条件、組織活動の財源を統一する事が目的です。

ダンプの単価で言えば、果敢に闘っている支部は53,000円(税込58,300円)ですが、遅れている支部は36,000円(税込39,600円)と開きがありました。同じ建交労で同じ組合費を納めているのに、所属支部が違うと生涯賃金が大きく異なることは、解決すべき喫緊の課題でした。

支部専従も4人の支部もあれば1人の支部もあり、専従の世代交代も大きな課題となっており、専従給与も一定水準でなければ、人材募集もままなりません。

広域支部結成に至るまでは、東日本大震災対策をブロック一丸で11年間取り組んで来たり、その前には、大型工事の仙台地下鉄建設を、東北ブロックの共同闘争として取り組んで来ました。これらを通して、支部間の情報共有や信頼関係が醸成されたことが背景にあります。

専従間では2年前から繰り返しの討議を行ない、一定の方針が固まった後、今年4月と8月には現場の役員も含めた「幹部会議」を2回開催しました。全代議員参加の下で大会を成功させる事にも力を入れました。

現在は、札幌ダンプ支部との共同闘争で、北海道新幹線トンネル工事にも就労しています。就労開始が早かった現場は、4年前の合意条件のため、1日50,000円(税込55,000円)でしたが、この間の燃料高騰を受けて53,000円(税込58,300円)にスライドする事を申し入れ、既に大手ゼネコン3社が受け入れを表明しています。これらも、建交労は一つである事を見せつけた結果であると思います。

東北地方では今年も、予期せぬ大水害に見舞われ、政府予算が付く「激甚災害」に指定されました。復興工事の殆どが、ダンプを多用する土木工事です。建設業界だけが潤うのではなく、水害で被災したダンプ労働者なども、生活再建のために適正単価を手にする必要があります。東北ダンプ支部は一丸となって取り組む決意です。

結成大会は、活動と財政の方針、大会宣言を満場一致で可決し、新委員長の音頭で団結頑張ろう(下の写真)を三唱し、閉会しました。舞台上に掲げられた組合旗には「**みちのくに一騎当千の我らあり**」の文字を染め抜きました。



## 仲間が一丸となって ダンプ労働者の地位の確立を



10月22日の建交労東北ダンプ支部結成大会で、執行委員長に選任された瀧柳です。私は、26歳の時にダンプ労働者であり、組合員であった父の紹介で組合の専従となりました。はじめは、右も左も分からず、ダンプの世界も全くといってよいくらい無知でした。23年たつてようやく労働組合とは、ダンプとは理解できるようになりました。私が目指す具体的な目標とは、ダンプ労働者の地位の確立です。

生前の父が亡くなる数日前、病床で会話が途切れたときに、ボソッと『もう一回ダンプやりたかったな』と言いました。私は、ダンプという職業には、それだけの魅力があるし、そこには、ダンプ屋としてのプライドがあったのだと思い、なんとも切なくなったことを覚えています。

ダンプという職業は、雨が降ればその日の朝に中止、単価も積算された単価の半分しかもらえません。これでは、一つの職業として確立しているとはいえません。労働組合を通して、何とかこの問題を解決したいと考えています。社会経済構造上の問題なので、簡単ではありません。だから、みなさん、少しずつ力を貸して下さい。

このたび結成大会で、東北が一つの支部として組織統合しました。組織統合は、お互いの弱いところを補うものではありません。東北全体で建交労全国ダンプ部会が打出している方針を長年の経験に基いて、推し進めるための組織統合です。労働組合の運動は、専従だけでは成り立ちません。専従と現場の仲間が一体となって、また東北全体で一丸となって取り組むことができれば、大きな変革ができると確信しています。

みなさん共にがんばりましょう。

晴釣雨読(せいちよううどく)  
太平洋に生息し、海と川を移動するサケ科の仲間には、シロザケ、カラフトマス、ギンザケ、キンダサケ、ベニザケ、サクラマス、サツキマスなどがいる。▼ヒメマスは鮭科の中でも際立っておいしいとされる「紅鮭」が、海に降りず湖沼に陸封され一生を過ごすようになった▼北海道では「チップアイヌ語」の愛称で知られ、高級魚として珍重され、体長は25センチ前後、最大で50センチほどに成長する▼体色は銀色で美しく、薄いピンク色の身は淡水魚にありがちな臭みが全く無く、クセのない旨味とあっさりとした脂が魅力である▼阿寒湖とチミケツ湖が天然の国内の生息域である▼ヒメマスが移植されたのが、明治に秋田県鹿角市出身「和井内貞行」が生産をかけた移植を成功させた。▼青森・秋田の両県にまたがる十和田湖が種卵供給湖となり、国内の60余りの湖沼に移植されて重要な水産資源となる▼十和田湖の紅葉は10月中旬から下旬頃が見頃で、奥入瀬渓流はミシユラン・グリーンガイドで二つ星に選ばれた遊歩道、約3里半続く渓流は絶景の連続で子ノ口まである▼湖は火山の噴火で水が溜まったカルデラ湖で昔から魚が棲めないとされていたが、移植によって守り継がれたヒメマスが今や貴重な魚で、刺身や焼き物はもちろん、丸ごと一匹の燻製も高い人気である。コロナ禍、退避観光を行い、絶品のヒメマス料理を満喫することで楽しい旅になるであろう。  
高橋 溪峰

## 大会宣言

岸田政権は7月に行われた参議院議員選挙で、改憲派議員で3分の2以上の議席を獲得し、衆参両院で改憲に向けた国会の発議が可能となりました。そのため今まで以上に改憲の策動と軍事力増強に力を入れています。

選挙運動の最終盤、銃撃により安倍元首相が死亡しました。この事件をきっかけに自民党と反社会的カルト集団・旧統一協会とのズブズブの関係が明らかとなりました。さらに世論の半数以上が反対をしていた「国葬」の実施を法的根拠のないまま閣議決定し、説明責任も全うしないまま強行した岸田政権の蛮行は許すことができません。内閣支持率も急降下し、政権運営もままならない状況に陥っています。

コロナ禍も3年目となりました。ロシアのウクライナ侵攻と相まって世界的な規模での物価高が進み、国民は経済的なダメージを受けています。岸田政権は命を軽視したコロナ対策を押し進め、ロシアのウクライナ侵攻や北朝鮮のミサイル問題などを引き合いに、危機意識を煽って大軍拡を打ち出すなど、国民主権・平和主義を謳う日本国憲法を蔑にしています。これらは決して看過できるものではありません。

東日本大震災から11年が経過した今年、公共工事における積算単価は労務費だけでも震災後60%以上も引き上げられています。ところが実際に労働者が受け取るのは、積算単価の半額です。働き方改革で建設業界にも週休2日制が導入され、ダンプ労働者の就労日数は減少しています。また、燃料費の値上げにより、ダンプの仲間は疲弊しています。

いよいよインボイス制度が来年10月から開始され、今まで売り上げが1千万円を越えなければ消費税を納めないで済んでいたダンプ労働者も、消費税課税業者となり、インボイスの番号を発行してもらわないと仕事をもらえなくなる事態も生まれようとしています。この制度は免税事業者から税金を搾り取る悪法であり、我々の仲間に大打撃を与えることは明白です。

今こそ、建交労に結集し、労働組合の使命でもある経済闘争(単価闘争)を旺盛に取り組む必要があります。東北の仲間が一丸となって、悪政にストップをかけ、要求実現でさらに前進できるよう組織拡大においてもたくさんの仲間を迎え入れ、より強大な東北ダンプ支部を築き上げましょう。我々の現在と未来のために、奮闘しようではありませんか。

以上宣言します。

2022年10月22日

建交労東北ダンプ支部第1回定期大会



## 建交労東北ダンプ支部の役員

(任期は2022年10月22日～第2回大会)

執行委員長	湊柳勝彦(福島分会)
副執行委員長	高橋正彦(秋田分会)
副執行委員長	永井正彦(福島分会)
副執行委員長	森谷 稔(福島分会)
書記長	昆 茂太郎(岩手分会)
書記次長	田中喜三男(秋田分会)
執行委員	鈴木宏明(岩手分会)
執行委員	高橋高男(青森分会)
執行委員	半澤正樹(福島分会)
会計監査	伊藤玲子(秋田分会)
会計監査	藤戸一祐(岩手分会)



## ダンプ持ち労働者

東北ダンプ結成大会では6人の代議員が発言しました。岩手の組合員のTさんがナンバー問題で発言をしたので、代表して発言要旨を載せます。

私は、道路会社の専属代車として仕事をしています。数年前、『白ナンバーダンプは違法だ』と岩手運輸支局から道路会社に電話があり、白ナンバーを使用することが難しくなった」と会社から伝えられ、困ってしまい組合に相談しました。

相談を受けた組合は、白ナンバーが違法でない事を組合員だけではなく、組合員外の方も含めて学習会を開き、「ダンプ労働者であれば堂々と仕事をしてください」という国交省の見解を示し、労働者性の証明をどのようにするかを学習しました。

学んだことは、「労働者であれば労働組合法上団結権が保障されていること、業者の場合はそれが保障されない。会社とダンプの仲間の間には『使用従属関係』がはっきりしている。だから労働組合に加入して、労働者性について会社に説明する」ということでした。

その後、岩手運輸支局が「白ナンバー違法」のような通達や協力依頼などを出すことは無いことを確認し、道路会社にそのことを説明し、直接運輸支局へ聞いてくれと伝えました。それからは違法な白ナンバー排除は行われていません。

← 団結懇親会での鏡割り

